

(2) [施策展開5] 地産地消と食に対する理解・活動の促進

ア 地産地消の推進による信州農畜産物への共感

【めざす平成 29 年の姿】

- ◇「おいしい信州ふード（風土）」が県内外に認知され、自然豊かな信州で生産される信州農畜産物への関心と理解が深まり、県民が様々な立場から地産地消に取り組んでいます。
- ◇新鮮な農畜産物を求め、農産物直売所を利用する消費者の増加により、地域の農畜産物の生産が拡大しています。
- ◇旅館・ホテル・飲食店等において、信州農畜産物を用いたメニューが拡大しています。
- ◇生産者・流通関係者等との連携・協力により、学校給食等において信州農畜産物の利用が拡大しています。
- ◇環境農業等への理解が進み、信州の環境にやさしい農産物等が地域の消費者に選ばれています。

<施策の取組状況>

○ 自然豊かな環境で生産される安全で良質な信州農畜産物の情報発信

- 地産地消を県民運動として盛り上げるため、地産地消「信州を食べよう」キャンペーン推進委員会*と連携し、協賛企業と協力して、様々なイベントを通じて地産地消の普及啓発を行いました。
- 「おいしい信州ふード（風土）」をテーマとした地産地消シンポジウムを開催（1回）するとともに、「おいしい信州ふード（風土）」ネットを活用し、県内外に対して情報発信を行いました。
*地産地消「信州を食べよう」キャンペーン推進委員会
長野県、JA長野県、信濃毎日新聞社、八十二銀行が地産地消の啓発・普及・情報発信などを目的に設立

〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・「信州を食べよう」キャンペーン協賛企業：35 社
- ・(再掲)「旬ちゃん」による学校訪問による地産地消、食育の推進：延べ 21 校
- ・(再掲) 地産地消シンポジウム H26.1.30 飯田市シルクプラザ 参加者 260 名
- ・(再掲)「おいしい信州ふード（風土）」ネットアクセス数 373,344 件 (H26.3 末現在)

○ 生産者と消費者との顔が見える関係の推進

- 「おいしい信州ふード(風土)」大使と生産者等による意見交換会を開催し、大使の発信力により産地の情報を広く発信しました。
- 「おいしい信州ふード（風土）」を活用したメニューの提供がさらに促進されるよう、『「おいしい信州ふード（風土）」SHOP』の登録を進め、お客様に対して自ら情報発信を行う発信拠点づくりを進めました。
- 直売所のPRのため、観光部、(一社)信州・長野県観光協会と連携して「ぐるっと信州体験博 2013」信州四季旅キャンペーン**を実施しました。

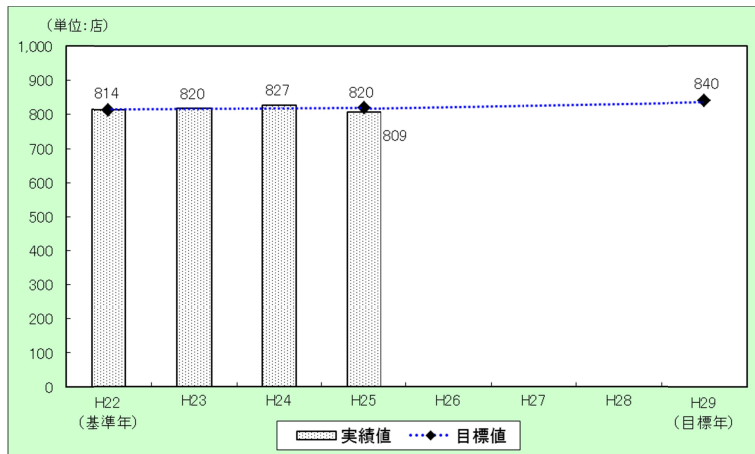
**「ぐるっと信州体験博 2013」信州四季旅キャンペーン

観光客に、県内各地を周遊いただき、信州の旅や食をお楽しみいただくための(一社)信州・長野県観光協会との連携による特別企画。収穫体験や農産物直売所等を巡り、スタンプ(3個)を集めて応募すると、抽選で県内温泉宿泊券や信州の特産品をプレゼント。

〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・玉村大使、中村大使と生産者等との交流：H25. 10. 29～30 小諸市（りんご・ワイン）他 10 団体
- ・小泉大使と生産者等との交流：H25. 12. 16 木曾町（すんき漬け）他 3 団体
- ・「おいしい信州ふーど（風土）」SHOP 登録数 368（H26. 3. 31 現在）
- ・「ぐるっと信州体験博 2013」信州四季旅キャンペーン参加農産物直売所：141 施設

■達成指標項目 25：農産物直売所（農産物マーケティング室調べ）



平成 25 年度の農産物直売所数は、小規模な農産物直売所へ出荷していた生産者が、より集客力のある農産物直売所への出荷先変更や、JAが運営する農産物直売所の統合等により減少し、809 か所となった。

○ 学校給食等における信州農畜産物の利用促進

- 地産地消「信州を食べようキャンペーン」推進委員会と連携し、「旬ちゃん」の学校訪問などにより地産地消、食育を推進するなど、学校給食等における信州農畜産物の利用を促進しました。
- 学校給食における県産鶏卵の利用率向上のため、県産鶏卵による殺菌凍結液卵の利活用を勧めました。
- 米粉パン製造技術研修会の開催により、製パン技術向上を支援するとともに、「県内米粉製粉販売事業者紹介パンフレット」及び「信州米粉物語」を配布し、米粉に関する情報提供を行いました。

〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・学校給食における県産農産物利用率：H25 42.6%
- ・学校給食における県産鶏卵利用率：H25 52.5%
- ・学校給食における米粉パン導入率：H25 79.4%
- ・(再掲)「旬ちゃん」による学校訪問による地産地消、食育の推進：延べ 21 校

○ 環境保全・エコ活動等の促進

- 信州食を育む県民会議において、フード・マイレージ等の普及啓発を行いました。
- 県下 10 地区の食生活改善推進協議会の学習会の開催に合わせて、環境にやさしい農業や有機農業・有機農産物への理解促進について啓発を行いました。(10 地区、延べ 256 名)
- 信州環境フェア 2013 に出展し、環境にやさしい農業や有機農業の取組について PR を行いました。

〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・信州食を育む県民会議（フード・マイレージ等の普及啓発） H25. 10. 12 安曇野市
- ・環境にやさしい農業や有機農業・有機農産物の啓発活動（10 地区、延べ 256 名）
- ・信州環境フェア 2013 への出展

＜今後の展開方向＞

《自然豊かな環境で生産される安全で良質な信州農畜産物の情報発信》

- 「おいしい信州ふード（風土）」シンポジウムを開催し、大使による基調講演や、ホームページを活用した情報発信を行うとともに、「おいしい信州ふード（風土）」地域協議会の取組により、地産地消等への意識の醸成や実践を促進します。
- 消費者に対する環境にやさしい農産物等のPRを強化するため、農産物直売所において専用販売コーナーの設置や情報誌の活用等による効果的な情報発信を実施します。

《生産者と消費者との顔が見える関係の推進》

- 農産物直売所の持つ価値を共有し、生産者と消費者との顔が見える関係を構築するため、関係機関と連携し、農産物直売所関係者や生産者及び一般消費者を対象とした産直・直売に関するサミットを開催します。
- 「おいしい信州ふード（風土）」SHOPの登録拡大（400店舗）による「おいしい信州ふード（風土）」を活用したメニューの提供の促進します。

《学校給食等における信州農畜産物の利用促進》

- 学校給食等県産農畜産物利用促進事業により広域流通のマッチングを図るなどにより、信州農畜産物の利用を促進します。
- 県産米粉消費拡大支援事業により、県内米粉商品の認知度向上や新たな米粉商品開発に向けた取組を支援し、県内産米粉の消費拡大と普及推進を図ります。

《農畜産物の生産を通じた環境保全・エコ活動等の促進》

- 消費者団体等への有機農業や有機農産物等への理解を促進するためのセミナーを開催します。

(2) [施策展開5] 地産地消と食に対する理解・活動の促進

イ 食育の推進による豊かな人間形成と健康長寿

【めざす平成29年の姿】

- ◇日々の食生活は、自然の恩恵の上に成り立ち、生産者を始めとして多くの人々の苦労や努力によって食は支えられていることが実感され、食に関する感謝の念と理解が深まっています。
- ◇家庭、学校、地域社会等の相互の密接な連携の下、子どもたちが楽しく食について学ぶことができる機会が様々な場面で提供されています。
- ◇多くの県民が様々な食に関する体験活動に参加し、これをきっかけに健全な食生活を実践しようとする意識が醸成されています。

<施策の取組状況>

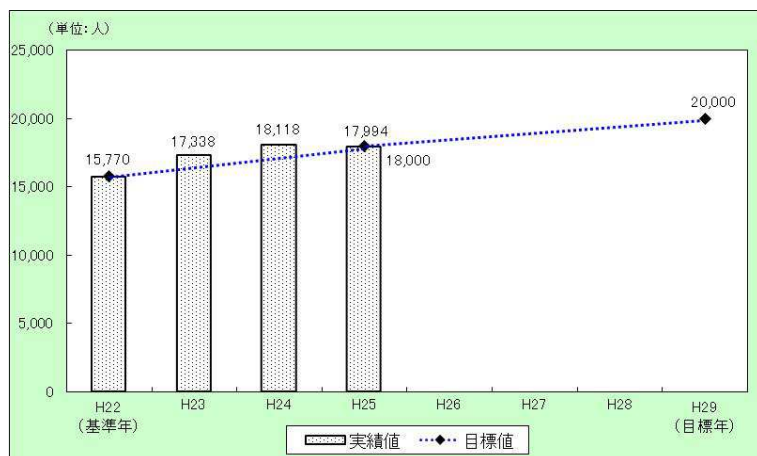
○ 学校、保育所等における食育の推進

- 栄養教諭の配置を拡充するとともに、栄養教諭、学校栄養職員等の資質向上のための研修会を実施しました。
- 県内公立小・中学校を対象に食生活等に関するアンケート調査を実施し、調査結果を市町村教育委員会へ報告するとともに、県全体の結果を公表しました。

[平成25年度の主な取組]

- ・栄養教諭の配置拡充：60人→90人（H26.4.1配置）
- ・児童生徒の食に関する実態調査の実施：県内小学校5年生、中学校2年生（約3万8千人対象）

■達成指標項目26：食育ボランティア数（内閣府調べ）



食育ボランティアの数は、基準年の平成22年度の15,770人と比べ増加しており、平成25年度の数は17,994人で、ほぼ目標値と同様となった。

○ 地域における食育の推進

- 県民が食事バランスガイドや栄養成分表示を活用できるよう、県民や飲食店等に対して、食事バランスガイドの活用方法や栄養成分表示等研修会を開催しました。
- 食を通じて県民の健康づくりを支援するため、「信州・食の健康応援店（「食塩控えめ」や「野菜たっぷり」のメニューを提供する飲食店、宿泊施設等）の登録を開始しました。



【第2回信州の食を育む県民会議】

- 県民のバランスの良い食生活の実践を支援するため、「料理・食品に含まれる塩分量・野菜量早見表」を作成しました。
- 県民運動としての食育の推進を進め、地域毎における食育推進のための課題等の共有・連携を行うための「信州の食を育む県民会議」及び「地域連絡会議」を開催しました。
- 県民の食育に対する関心と理解を深めるため、「第2回信州の食を育む県民大会」及び「地域食育フォーラム」を開催しました。
- 食生活改善推進員の活動を強化するため、養成や育成のための研修会を開催しました。

〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・体験的食育推進事業の実施：7 団体
- ・食育推進県民大会：H25. 10. 12（安曇野市明科公民館 320 名参加）
- ・地域食育フォーラム：9 回
- ・食生活改善推進員ステップアップ研修会：10 コース開催

○ 食文化の継承のための活動への支援

- 地域農業の振興、農村女性団体等の活動や連携の促進などを図るため、地域の実践的リーダーとして、「長野県農村生活マイスター」の認定事業を実施しました。
- 伝統文化・食文化の伝承等を目的とした、児童・生徒への農作業体験や伝統食の礼儀を学ぶ体験学習を実施しました。
- 特色ある地域食材や郷土料理の見直しと、地産地消の普及啓発活動の更なる推進を図るため、料理コンクールを開催しました。
- 新規就農者や農家以外の親子を対象とした地産地消や伝統食の伝承に係る講習会を開催しました。
- 農村女性を対象に、信州農産物のオリジナル品種や伝統文化、食文化の学習により食農教育の充実に繋げ、活動の拡充を図るため研修会を開催しました。
- 地元農産物を活かした地産地消給食の日に、「旬ちゃん」の学校訪問を実施し、学校給食を通じて食文化への理解を深めました。

〔平成 25 年度の主な取組〕

- ・長野県農村生活マイスター認定研修会の実施（年 5 回、23 名を認定）
- ・長野県農村生活マイスター協会による「農村女性チャレンジプラン推進モデル事業」の実施（県下 13 地区×1 回）
- ・県と農村女性ネットワークながのの共催による、信州の味コンクールの開催（H25. 11. 12 長野市若里市民文化ホール 応募総数 70 点）
- ・農村女性ネットワークながののリーダー研修会の実施（H25. 7. 4～7. 5 塩尻市 アスティかたおか、県野菜花き試験場、奈良井宿 参加人数 40 名）
- ・（再掲）「旬ちゃん」による学校訪問による地産地消、食育の推進：延べ 21 校

<今後の展開方向>

《学校、保育所等における食育の推進》

- 学校における食育推進の中核となる栄養教諭の配置の拡充を進めるとともに、研修会等を開催して資質の向上を図るなど、家庭・地域との連携のもと学校における食育を一層推進します。
- 学校給食等県産農畜産物利用促進事業において、学校訪問による食育を推進します。
- 学校給食納入製パン業者等を対象とした米粉パン製造技術研修会及び学校給食等での米粉消費拡大に向けた事業を実施します。

《地域における食育の推進》

- 県民が食事バランスガイドや栄養成分表示を活用できるよう、普及啓発を行うとともに、飲食店等に対しては、食事バランスガイドの活用方法や栄養成分表示方法等に関する相談・支援を実施します。
- 市町村や関係機関・団体等と連携し、食育ボランティアとともに「食育キャラバン隊」を結成し、県民の身近な場所に出向き「食塩摂取量の減少」「野菜摂取量の増加」「朝食欠食の減少」の取り組みを促進する活動を実施します。
- 食に関する感謝の心や理解を深めるために、子どもたちの農業体験を行う実施団体や市町村等の活動を支援します。
- 「信州の食を育む県民会議」を開催し、県民運動としての食育の推進について検討するとともに、10地域ごとに地域における食育推進のための課題等の共有・連携を行うための「地域連絡会議」を開催します。
- 食育に対する理解と関心を深め、食育の取組への積極的な参加を促すことを目的に、「信州の食を育む県民大会」を開催します。
- 食事を通じて健康づくりを支援するため、「信州・食の健康応援店（塩分控えめや野菜たっぷりのメニューを提供する飲食店、宿泊施設等）」の登録及び利用を促進します。

《食文化の継承のための活動への支援》

- 農業経営の改善や地域活動に意欲的な女性農業者を農村生活マイスターとして認定し、食農教育を充実します。
- 伝統野菜など特色ある地域食材を活用した創作ふるさと料理など、伝統的な食文化の再認識と新たな食の活用方法を提案する信州の味コンクールを開催します。
- 農村女性フェスティバル等のイベントで、農産加工品の対面販売を行い、地域の特色ある食文化を広く発信します。
- 農村女性のグループ活動を通し、女性の感性を活かした地産地消・食文化伝承を推進します。
- 学校給食への地域食材の供給と食農教育を推進します。
- 農村の暮らしに根ざした伝統行事や、食文化の伝承と健康的な食生活の実践に向けた活動を支援します。